

入選

優しい世界

千葉県 金杉台中学校

二年 鈴木 茉帆

私はある土曜日、母と二人で買い物をするため、バスで駅へ向かった。行きたかった場所へ行けるため、わくわくしていた。家からバス停まで行き、バスを降り、エスカレーターで上に行こうとしていた。

そのとき、上から一人の杖を持ったおじさんが、エスカレーターを使い下に降りようとしていた。それを見て、母は、「エレベーターを使ったらいいのに。」と言っていた。近くにエレベーターはある。それに、そのおじさんは大量の荷物を持っていた。

すると突然、おじさんは転倒し、下に落ちてしまった。エスカレーターに並んでいたうしろのお婆さんは、転倒するまで支えていたが、支えきれなかった。

それに気がついた、子どもを連れた女性の方が子どもに、「ちょっと待ってて！」と大声で言い、即座に走って支えを手伝った。幸い、そのおじさんはエスカレーター中央部で止まった。

しかし、立つことができず、エスカレーターの下にはさまってしまったらどうしようと、現場は大慌てだった。私たちはかけ上がり、エスカレーターの非常用停止ボタンを押すのか、小さい子どもを抱え下へ降りるか、迷っていたが、子どもが下に行きたそうだったため、子どもを抱え下へ降りた。

すると、私たちが迷っている際、うしろにきたお婆さんが停止ボタンを押してくださった。助かったおじさんは、「本当にすみません。ご迷惑をおかけしました。」といい、バスに乗ってしまった。残った私たちは心配しながら、「あの方はご家族ではなかったのですね。」と話していた。

そう、ずっと支えていたお婆さんは、おじさんの知り合いではなかったのだ。私たちは子どもを連れた女性と話をし、「ありがとうございます。お疲れ様でした。」と言葉を交わし、お互いにその場を去っていった。

歩きながら、「日本ってすごいよね。うしろの人が、すぐにボタン押してくれたね。」と話していた。

止めたエスカレーターが作動しているか心配だったが、帰りに通る際には作動していた。もしもあのとき、日本人が自己中心的な考えで、誰も助けようとしていなかったら。あの場所に誰もいなかったら。私はあの日、よい体験をしたな、と思った。

日本にはたくさんの親切がある。最近、新型コロナウイルスのニュースがたくさんある。私は、良いニュースが見たいと思っていた。良いニュースを見ると気持ちがいい。日本はなにもなくて平和だな、と思いたい。この日の事件をきっかけに、改めてそう思った。

これからみんなが優しく、気づかいのできる日々を送り、コロナが収まり、外国から日本へ遊びに来たとき、「日本の人はみんな親切だよね」「日本って住みやすそうだね」と思われるような生活を送っていきたい。どんなときだって助け合い、励まし合い、笑い合い、ときにはけんかをし、泣く日々をさまざまな場面で送っていけたらみんなが幸せに暮らせるのではないかと思う。

世界が平等に夢を持てる環境になれるよう、小さな親切を見つけ、一人ひとりが努力をしていかなければならないと私は思う。